

2015年(平成27年)

第95号

(11月1日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

「庭野開祖入寂会」 恩師の遺徳を思ひ、一層の精進を誓う

「庭野開祖入寂会(にゅうじゃくえ)」式典が10月4日、大聖堂はじめ全国各教会で挙行されました。大聖堂には65教会から会員約3000人が参集。16年前に入寂した庭野日敬開祖の遺徳を思(しの)ぶとともに、「追慕」「讃歎(さんたん)」「報恩感謝」の思いを深め、一層の精進を誓いました。大聖堂での式典の様子はインターネットで全国各教会に配信されました。

式典に先立ち、当日朝、庭野開祖の「お舍利」が奉安される一乗宝塔で「開扉(かいひ)の儀」が行われ、大勢の会員が見守る中、庭野日鏡会長の手によって扉が開けられました。

大聖堂の式典では、全国の支部長代表16人による「献供(けんく)の儀」に続き、「開祖さまとの対話」のひとつが設けられました。サヌカイトの神秘的な旋律が場内を包む中、参集者は庭野開祖の遺徳を思ひ、修行精進への誓いを新たにしました。次いで、庭野光祥次代会長を導師に読経供養が行われ、庭野会長名の「報恩讃歎文」が奏上されました。

このあと、片桐克修元教団理事が『開祖さまを思いで』と題し、体験を発表しました。高田支部長(現・上越教会長)に就任して間もない昭和43年4月に開催された「青・壮年躍進大会」での思い出を紹介。昼食を取ることなく地元有識者の質疑に答え、信仰の尊さを説き続けた庭野開祖の熱意が地域に協力の輪を広げ、上越地区の明るい社会づくり運動につながったと当時を述懐しました。

また、庭野開祖の尽力によって、会員一人ひとりの菩薩行が国内だけでなくWCRP(世界宗教者平和会議)など世界の諸活動にも及んでいることを強調。



「直弟子にして頂いたことへの感謝と自覚を胸に、これからの人生も精進していきたい」と誓願しました。

焼香後、法話に立った庭野会長は、人間を幸福にする要素として一般的に、**金銭を含めたモノ(物質)、環境と状況、心の働き**という三つを挙げた上で、環境や物質的にいくら恵まれても、心が満たされなければ本当の幸せを感じることはできないと指摘。幸せになるためには、「**足るを知る心**」が大切と述べました。

さらに、何事にも満足と思える心になれると、感謝のできる人間に生まれ変わることができ、その心の働きを得るために、さまざまな現象を通して互いに訓練しているのだと説きました。また、始まりも終わりもないのが仏道修行と示し、常に精進の心で人生を歩んでいくことが、庭野開祖への報恩に通じると語りました。

時事刻々

先月、ドキュメント映画を鑑賞しました。「四つの空のちのちありがとう」というタイトルで、難病を患いながら、いのちに向き合い、困難を乗り越えていく四組の家族の物語でした▼普通の会社員だった鈴木さん、長女を小児がんで亡くし、会社を辞めて、いのちの尊さを説く伝道士に▼小6で白血病を発病した高橋さん、高3でバセドウ病が判明したが、看護師の夢へ向かって進む▼老舗料理店に嫁いだ小出さん、不妊治療をして授かった娘は重度障害児、女将として働きながら車イスに乗る一人娘を支える▼体重326グラムで生まれた吉岡さん、障害を負いながらも普通小学校に通う▼映画の後、5才で筋ジストロフィーと診断された吉村さん、家族と一緒に車イスで阪急沿線を歩く、ゴールの甲子園球場で、憧れの赤星選手と対面▼みんな困難と直面しながらも、病気を真正面から受け止め、自分のいのち、多くの人の支えを、神さまから頂いたものと感謝する姿に、感動させられました。

平成27年、私たちは「善き師・善き友・善き教えを信じ 育てよう若い力! 発揮しようみんなの力!」を実践して参ります。

今月のことば 「軽んじない」

京南支部長 石田恭子

今月は京南支部の石田が担当させていただきます。宜しくお願い致します。11月の佼成では「軽んじない」というご法話を頂いております。



前段は、みんな「仏の御いのち」です。「法華経の常不軽菩薩品に『我汝を軽しめず』という一句があります。

この言葉を私たちの日常に照らすと、人を「軽んじない」とは、具体的にどのような姿勢や態度といえるでしょうか」と問いかけて頂いております。

「道元禅師は『悉有は仏性なり』と受けとられたように、この世のすべてが仏性そのものである。また、一休禅師は『一切の衆生と仏へだてなし、隔つるものは迷い一念』と喝破され、そのことに気づけば、人を尊び、敬うことが私たちの自然な姿だと思います」と。

人を憎んだり、欲張ったりと、至らないだらけの私ですが、「自分を省みる事も仏性そのもののはたらきであり、おのおのが『仏の御いのち』にほかならないことの証なのです」と教えて頂いております。

一休禅師といえば、私の住んでいる地域には「一休寺」があり、11月号の佼成の表紙に描かれている紅葉のように、一休寺の境内の苔と紅葉のコントラストはとても素晴らしいです。本尊は釈迦如来座像です。

また約500年前に、一休禅師が中国からの製法をもとに伝授した、麴菌を使用して発酵させた塩辛い納豆は、一般的な糸引き納豆と違い「寺納豆」と呼ばれ、アミノ酸も豊富な保存食です。夏の暑い日に仕込みをして、それから一年間天日干しにして完成させます。

今も代々伝えられ、住職の手により作られています。

後段は「狎れる」を戒めるです。狎(な)れるとは、なじんでうちとけすぎることです。前段での「その気づきを生活実践に結びつけ、人を『軽んじない』ために大切な事として、●けじめを忘れず礼を欠かない。●親しい間柄でも敬語を使い丁寧に話す。●長所を見て称える合掌礼拝の精神。こうしたことが、調和のとれた人間関係を築く」また、「最初は心がともなわなくても、繰り返しかたちで示す事で自らの心に影響を及ぼし、常不軽菩薩のように『つねに軽んじない』姿勢が自分のものになります」と教えて頂き、会長先生の優しさを感じさせて頂きます。

最後に「合掌・礼拝に徹した常不軽菩薩に倣い、朝には『合掌・礼拝の心で一日を過ごそう』と誓い、夕べは『私はきょう、人を軽んじなかつただろうか』と省みる地道な実践が、平和な生活の基本」と結んで頂いております。

今月、このご法話を担当させて頂くお陰さまで、目の前の事柄に取り組むなかで、仏さまのものの見方、受け止め方で、人と出会えていただろうか？仏さまから、お智慧を頂けるような精進をさせて頂けていただろうか？ということ、内省させて頂きました。

11月は開祖さま生誕会の月です。開祖さまのご生誕をお祝いするとともに「報恩感謝」と新たなる「誓願」をし、教えを繰り返し読み・学び・そして謙虚に精進をさせて頂きたいと、決意を新たにさせて頂きました。合掌

国連創設 70 周年記念シンポジウム 「日本と国連—京都から世界平和を願って」

10月25日(日)国立京都国際会館において「国連創設70周年記念シンポジウム」が開催されました。今年、国連が誕生して70年。日本が国連に加盟して60年という節目の年です。

初めに、関西学院大学副学長・元国連大使の神余隆博氏の基調講演があり、そのあとに行われたパネルディスカッションでは、第1部「日本と国連—京都から世界平和を願って」をテーマに、パネリストとして、大阪大学理事/副学長・元国連日本政府代表部公使参事官の星野俊也氏。京都大学公共政策大学院教授の中西寛氏。共同通信社外信部部長の儀間朝浩氏が登壇。

第2部「若者へのメッセージ・Think Globally, Act Locally」では、国連広報センター所長の根本かおる氏。元国連開発計画職員・関西学院大学客員教授の大崎麻子氏。株式会社堀場製作所常務取締役の佐藤文俊氏。特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス創

始者の鬼丸昌也氏が登壇し、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。

その中で、本会会員でもある鬼丸昌也氏は、自分自身が大切にしている事として、「まず自分で考えて行動を起こし、自身の至らなさを隠さずさらけ出す事により、周囲の方々が協力して下さるようになる。平和活動をする上で、非常に大切な事だと思います」と語り、その言葉がとても印象に残りました。



お会式・一乗まつり 心をつなぎ躍動 誓願を胸に8000人が歓喜の行進

平成27年次の「お会式・一乗まつり」が10月18日、立正佼成会本部周辺で開催されました。本会発祥の地・修養道場から法輪閣まで練り歩く「一乗行進」には、支教区、教会、本部班など国内外の41隊、約8000人が参加。抜けるような青空の下、マトイや万灯を中心に活気に満ちた行進が展開され、沿道からは約2万2000人が声援を送りました。行進の様子はインターネットを通じてライブ配信されました。

「お会式・一乗まつり」は、日蓮聖人の遺徳を偲（しの）ぶとともに、「人を救い、世を立て直す」との一念で生涯を貫いた庭野日敬開祖を追慕・讃歎（さんたん）し、報恩感謝の心で菩薩行実践の誓願を新たにします。参加者や見学者、地域住民らが共に絆、喜び、活力を感応できる「一乗精神」の具現の場としても位置づけられています。



当日は、午前9時から大聖堂で「一乗行進祈願供養」が行われました。川端健之理事長導師による祈願供養に続き、庭野日鏡会長が「お言葉」に立ち、法華経に説かれる常不軽菩薩のように、相手に礼を尽くす一人ひとりの実践が世界平和につながると強調。「共に敬う合掌礼拝（らいはい）の精神で皆の心が一つにまとまる喜びをかみしめ、ご法を頂く身に感謝しながら、本日の行進に臨んで頂きたい」と述べ、参加者を激励しました。

本会発祥の地・修養道場前で荒川教会会員（30）が発進を宣言。午後0時30分に「一乗行進」がスタートしました。本部班を先頭に、マトイ、万灯、山車などで構成された全41隊が爽やかな陽気の中、中野本郷通りを行進。波羅蜜（はらみつ）橋、大聖堂正面玄関前を通り、法輪閣まで練り歩きました。

今年は、本会所依の經典である法華経を象徴する蓮の花をかたどる山車が多く登場したほか、世界平和に向けた願いや菩薩行の実践を誓うメッセージを横断幕や幟旗（のぼりばた）に掲げる隊列が目立ちました。

普門館前に設けられた中央観覧席では、多くの来賓と共に、庭野会長、庭野光祥次代会長も観覧し、「お披露目」の場面で渾身（こんしん）の演技を披露するすべての隊列に拍手を送りました。



この日、大聖堂前広場などで開催された「一乗物産展」には、各支教区や教会のほか、本会と協力関係にある25団体が出展。各地の特産品や雑貨などを販売しました。今年初出店となる古河教会では、当日早朝に採れたキャベツやレタスのほか、生産者である会員の写真と名前を記載したコシヒカリなどが販売されました。



京都教会からは、青年部の男女・応援隊あわせて36名が参加し、世界平和への願いを込めて、この日に向けて練習した成果をいかに発揮しました。

「平和とは何か」 ～庭野開祖著『平和への道』より～

今年(2015年)は戦後70年、数え切れないほどの人たちの犠牲のおかげで、私たちは平穏な暮らしを頂いています。二度と悲惨な戦争はしないとの誓いを立てて、今日まで平和な日本を築いてきました。しかし一方、国会では「安全保障法制」が成立し、国民の多数がそれに対して異を唱えています。

こうした一年の出来事を通して、政治に無関心と言われていた若者や子育て中の女性が、関心をもち行動していることは、日本の将来に明るいものを感じます。

2ヵ月ほどで新しい年を迎えます。一年の締めくくりとして、庭野開祖の著書から『平和』について学んでいきたいと思います。(編集部)

平和とは何か——一言にしていえば、「人と人との間、人と自然との間に、和やかさと、順調さが保たれている状態」をいいます。

人と人との間というのは、一人の個人と一人の個人を出発点として、人間が造っているありとあらゆる社会の総称です。そういう意味での人と人との間の関係が和やかで、順調である状態を、平和というわけです。

(中略)

人と人との間の平和は、どこにあるか、どうしたら、それを成就できるか。わたしは、心と形の両方から追及していかなければ、絶対に、それは完成されないと思います。

まず第一に大切なのは、心から広がっていく平和です。一人ひとりの人々の心が平和的になり、その平和的な心と平和的な心が結び合えば、世の中全体が平和になることは必至です。逆にいえば、どんなに世の中のしくみを変えてみたところで、人間一人ひとりの心が平和にならなければ、ほんとうの平和というものが成就するはずはありません。ユネスコ憲章の前文に「戦争は人の心から起こる。ゆえに平和の砦は人の心の上に築かねばならぬ」とありますが、まことにそのとおりです。

それでは、平和の心とは、どのようなものかということになりますが、その究極は仏教でいう慈悲、キリスト教でいう愛をもって人に対する心です。広やかな

気持ちで他を受容し、他の過ちをトゲトゲしく咎め立てすることなく、争わず、苦しめず、怒らず、妬まず、つねに他とともに幸せでありたい、と望む心です。

平和な心をわれわれはなかなか成就できません。できない原因を追及していきますと、最期に突き当たるものは、人間の貪欲(とんよく)というものです。

(中略)

貪欲とは、むさぼり欲することです。物質や快樂だけでなく、権力とか、名声とか、他からの愛情とか、奉仕とかを必要以上に、飽くことなく追い求めることも、その範疇に入ります。

このような自己中心的な欲望を飽くことを知らず追い求めていくと、心が休まることはなく、かえって苦しみがつのってくるものです。しかも、大事なものは、それが個人の心の中の痛みだけで終わればいいのですが、たくさんの人間が自己中心的な欲望を、どこまでも追及してゆきますと、その貪欲と貪欲とが衝突せざるをえませんから、そこに必ず対立と摩擦が生じ、人と人との間の不和、社会的な紛争、そして国家間の戦争にまで発展してしまうのです。(中略)

ですから、世の中を平和にするためには、まず、お互いの一人ひとりがほんとうに知恵のある人間となつて、さまざまな欲望を制御できるようにならなければなりません。(後略)

11～12月の主な教会行事

11月1日(日)	9:00～	朔日参り・布薩の日
	10:30～	七五三参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	開祖さま生誕会
12月1日(火)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4日(金)	9:00～	開祖さまご命日
10日(木)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(火)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

ここ数年、日本でも秋の話題といえばハロウィン。海外では10月31日と決まっています。そもそもハロウィンとは万聖節の前夜祭。万聖節とは毎年11月1日にあらゆる聖人を記念する祝日なのですが、その前日に秋の収穫を祈って霊を招かないようにする儀式だそうです。海外ではその日に子供がかぼちゃの器をかぶり各家を歩いてお菓子をもらうというのが定番。日本ではそこまで根付いていませんが、子供が安心して家を訪ねることが出来る世の中でありたいものです。